

## 令和4年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

【学校像】伝統ある普通科高校として、以下の学校をめざす。

- ・希望に応じた進路実現をサポートする学校
- ・次代を担う志高くたくましい人材を育てる学校
- ・地域に信頼され誇りとされる学校

【育てる力】授業・学校行事・部活動・地域連携等を通じて、以下の力を育む。

- ・確かな学力とキャリアデザイン形成力
- ・校訓「自律・敬愛・共創」 ― 自ら規律を重んじ他者を敬愛しながら、共働して価値あるものを創り出す力をつける ―
- ・知徳体備わった豊かな人間性

## 2 中期的目標

## 1 学力向上と進路実現

- (1) 新学習指導要領と本校の実情や将来像をふまえ、「確かな学力」の定着と主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の取組みを図る。
- ア 各教科の授業改善について「生徒の発言を引き出し、表現力を高める授業づくり」を共通目標として推進し、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」をバランスよく育成していくことをめざす。
- イ 校内・校外研修や教員の授業相互見学、研究授業の活性化などを通して、授業改善の取組みを進め、生徒の授業充実度や満足感を向上させる。
- ウ 全教室に設置された電子黒板とホワイトボードの活用と、GIGA スクール構想を踏まえた ICT を効果的に取り入れ、授業改善の推進を図る。
- (2) グローバル化や情報化社会に向けた国際的な視野をもとに英語コミュニケーション力を身につける。
- ア 「学習基礎」(毎朝のモジュール型学習：通称朝学)において、モジュールメディアステーション(一斉配信機能付き電子黒板)を活用して英語ディクテーション学習で「聴き・書き取る英語力」と「集中力」を身につける。
- イ 平成27年度学校経営推進費事業で支援された「英語多読・多聴ステーション」をさらに充実し発展させる。
- ウ 英語力の習得に特化した校内語学研修の充実やスピーキングテストを実施することで、4技能を統合した発信する力を育成する。
- (3) 生徒の進路希望を実現させる。
- ア 進路目標に応じたコース(I型文系・II型理系)の指導を強化し、入試結果の向上をめざす
- イ ガイダンス機能、情報提供を増加させ、進路実現につなげる。
- \*学力生活実態調査(Bゾーン以上の成績を有する生徒が、学年の過半数)
- \*中堅・難関大学現役合格者数が、8クラスで令和4年度180名、7クラス令和5年度200名、7クラス令和6年度200名。(9クラス令和元年度155名、8クラス令和2年度171名、8クラス令和3年度151名)※令和2年度より中堅大の基準を変更し、合格実人数で表記

## 2 総合的な探究の時間の推進

- (1) 校訓「自律・敬愛・共創」(平成30年7月設定)の志を持ったよき社会人として、多様な他者の考え方や生き方を相互に認め合いながら、新たな価値あるものを共に創り上げていく資質と能力を養うため、総合的な探究の時間を推進する。
- ア 総合探究推進委員会は、分掌、委員会、教科、教員個人の実践やスキルの中から多くの効果的な情報を得て、より充実した取組みになるよう企画立案・実践していくことで「総合的な探究の時間」を推進していく。
- イ キャリア教育、ボランティア活動、ライフプラン作成、SDGs 課題解決学習等、各分野での実践を検証し、充実・発展させていく。
- ウ 人権教育、道徳教育を中心に、命の大切さを学び、自他を尊重する人権意識と、他者とよりよく生きるための基盤となる道徳性を養い、一人ひとりが将来に対する夢や希望を持ち、自らの人生や未来を切り拓いていく力を育む。
- (2) 国際交流活動の充実を図る。
- ア 外部関係機関等と連携し、海外の高校生等との交流を通じて国際理解を深め、コミュニケーション能力を高める。
- イ 1～2学年においてイングリッシュデイ(外国人講師のグループ別コミュニケーション・プレゼン研修)を2回実施
- (3) 読書活動の推進を図る。
- 図書館運営協議会を中心に読書活動の推進を図る。

## 3 府民に信頼される魅力ある学校づくり

- (1) 生徒指導・支援体制の確立(「自律・敬愛・共創」の志を育む)
- ア 支援相談委員会が、「高校生活支援カード」を活用して、支援を必要とする生徒の実態把握と個別の支援策を検討し、「個別の支援計画」を作成する。また、支援方法の研修を行い、「ともに学び、ともに育つ」教育のさらなる推進を図る。
- イ 自治会活動の充実を図り、文化祭・体育大会等の諸行事について、生徒の主体性と自治運営力を高めて活性させ、充実感を育むとともに、地域や保護者との交流を通して、お互いの信頼関係を深める。
- ウ 生徒指導・支援のあらゆる場面において、生徒の規範意識やマナー意識、あいさつ等、自他を思いやる心を醸成する。また、遅刻数のさらなる減少、事故等の防止に重点を置く。
- エ 部活動の活性化を推進し、バランスのとれた心身の成長と健全な人間関係を形成する力の育成を図る。
- (2) 学校経営体制の強化
- ア 学校経営の機動性・円滑性を高めるため、組織力の強化を図る。
- イ 教員の「やる気」を高め、より主体的に動くことができる教員集団を育成し、生徒の満足感につなげる。
- ウ 働き方改革の取組みとして業務の効率化を促進し、意識の改善を図る。
- エ 保護者連携
- (3) 開かれた学校づくり
- ア より開かれた学校をめざし、積極的な情報提供や広報活動、ボランティア活動などを通して地域交流を展開していく。
- イ 令和4年の創立百周年記念事業に向けて「ALL ABENO 共創100周年伝統と志を地域とともに未来へ!」をスローガンに、創立100周年記念実行委員会の主導のもとに生徒・PTA・教職員・同窓会等のオール阿倍野態勢で、一丸となって取組みを成功させる。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和4年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p><b>【変更点・概要】</b></p> <p>GIGA スクール構想の実現に向け、昨年度より配備された一人一台端末の chromebook の活用の効果について検証するため、本年度よりアンケート項目に追加した。その結果、7割ほどの生徒から授業やアンケートでの使用について、肯定的な評価を得ている。しかしながら、GIGA スクール構想の位置づけとして、より高い指示を必要としているため、その活用の見直しが今後の課題となってくる。</p> <p>この二年間、生徒・保護者・教員ともに、半分以上の項目で肯定率が上がっており、コロナ禍三年目を過ごす中で学校運営が安定してきていると考える。その中で「学校が楽しい」「入学させて良かった」の肯定値は、生徒・保護者ともにほぼ昨年並みで高い数値となった。また「進路実現に向けて、学校から適切な情報提供や指導がある」や「学校行事は、子どもたちが楽しく行えるよう工夫されている」などの項目で保護者の肯定値がとくに上昇している。進路指導部や自治会指導部の担当者をはじめとした各教員のきめ細やかな対応や保護者自身に体育大会など行事に直接参加してもらおう中で、子どもたちの成長を直接見てもらうとともに必要な情報提供を欠かさず積み重ねたことが、保護者の満足につながっていると考える。</p> <p>保護者アンケートで「学習の内容や進度等を、ある程度把握している」の項目においては、否定的意見が4割前後で推移しており、肯定率も下がっている。学力向上の一つの方策として、家庭学習時間を伸ばしていくことを課題としているため、学校からの課題指示だけでなく、各家庭での支援・見守りも必要としている部分がある。今後、そのような連携体制を整えていく中で、各家庭での学習内容の把握を改善していくとともに、授業での理解度の向上につなげていくことを検討・実施していく。</p> <p><b>【学習指導】</b></p> <p>「生徒の発言を引き出し、表現力を高める授業づくり」について、教員側の取り組みに対する意識とそれを受け止める生徒側の意識に少し隔たりがあるように感じるが、生徒の肯定率も7割以上で昨年度より2ポイント上昇しており、今後、コロナが収束すればその溝は改善していくと考えている。</p> <p>「授業の分かりやすさ」について、生徒アンケートでは、肯定率が8割前後を維持する結果となっているが、保護者アンケートでは否定的意見が3割弱で推移している。これについては、各教員が授業方法を改善していく必要があるとともに、生徒自身が予習・復習など自学自習を行うことで、改善していく側面もあり、学習習慣をどのように定着させていくかという課題となる。</p> <p>「ICT 機器等活用」については教職員の活用率は高く、生徒の肯定率も8割を常に超えており一定の評価を得ているが、1人1台端末(タブレット)の活用については、生徒の肯定率が7割となっており、さらなるICT化を推進するため、その活用の向上に努める。</p> <p><b>【生徒指導】</b></p> <p>本校の生徒指導について、生徒・保護者ともに肯定率7割以上と一定の理解は得ており、特に「生徒相談・教育相談」については生徒・保護者ともに肯定率が上昇している。一方「いじめについての指導・対応」や「人権教育に関すること」など、普段の学校生活で生徒・保護者があまり意識することがない項目については、「わからない(保留)」の数値が高く出ており、学校の指導方針等の説明やその理解が進んでいないことが示されることとなった。</p> <p>「学校行事」について、今年度は、新型コロナウイルス感染症対策の基準が緩和されたこともあり、保護者等の参加や活動時間の延長など、可能と考えられる範囲で従来に戻す方向で変更した。その結果「学校行事」に関する肯定値は、保護者・生徒ともに上昇し、昨年度に続き上昇することとなった。</p> <p>生徒指導部が特に力をいれている「遅刻指導」については、昨年度コロナ不安の影響などもあり増加していたが、今年度は教員のきめ細かな指導もあり減少している状況にある。</p> <p><b>【進路指導】</b></p> <p>昨年度、課題として挙げていた「進路実現に向けて、学校から適切な情報提供」について、保護者の肯定率が8割を超えており、生徒の肯定値とともに大きな改善が見られた。進路指導に関する情報については、保護者へのメール案内をより丁寧にしたことやそのメール案内が慣例化された結果が肯定率の上昇につながっていると考えている。</p> <p>「生徒・保護者との相談」・「放課後の補習や長期休業期間中の講習」については、肯定値が上昇しており、今後もきめ細やかな対応を継続していくことで、「ワンランク上」の進路目標を実現させるサポートを今後も継続していく。それとともに、生徒自身が自分で進路を切り開く力をつけさせるような取り組みや指導の確立が必要となっている。</p>	<p><b>【第1回】7月7日</b></p> <p>■今年度の学校経営計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・同窓会館の2階部分をアクティブラーニングにも使える施設に改修されたので、同窓会館の利用の活性化について、学校運営協議会も含めて学校で意見を出してもらいたい。と意見があった。</li> <li>・学校で取り組まれていることが保護者に伝わりきっていない部分がある。HP等でわかりやすく情報公開するような工夫が必要である。と意見があった。</li> <li>・池嶋委員より働き方改革への意識をもって、ICTなどを使った効率化を実施し、これまでの業務についても、見直しを検討していく必要がある。と意見があった。</li> </ul> <p><b>【第2回】11月11日</b></p> <p>■スクールミッションについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スクールミッション案について、いくつか場面という言葉が並んでいるが具体的にはどういう場面があるのか。そして最終的なゴールはどこであるのかという質問が出て、他の委員より、ゴールは学びに向かう力の育成である。そのゴールに向かうために、挙げているような様々な場面を設定するというのである。という意見があった。</li> <li>・主体性の評価のためパフォーマンス課題をすること求められているが、各科目からの課題が時期的に重なることはある。これについてどのように対応していくのかと質問があり、この課題について調整を行っていくため、各教科の情報交換を行っていく必要がある。という意見があった。</li> <li>・同窓会館の2階部分(コ・クリエイティブベース)について、アクティブラーニングとして活用するよう、その方策について質問があり、阿倍野高校の教訓の一つである「共創」を育てていくよう同窓会館の利用も活性化してもらいたい。と意見があった。</li> </ul> <p><b>【第3回】1月27日</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動の改革の話の中で、ペアリングの学校は選べないのか？と質問があり、「選べない。」という回答を受けて、阿倍野高校と関係の深い住吉高校とのペアリングと思っていた。という意見があった。</li> <li>・現1年生からカリキュラムが変わり、アンケート結果の違いもあるのではないかと。また成績の評価法の変更によって、授業に対するパラダイムシフトが必要であ</li> </ul>

## 【学校経営等】

「学校の施設・設備」に対する意見について真摯に受け止め、昨年度より対応を重ねてきた。その結果、肯定率は昨年度に続き上昇しており、保護者においては66%（生徒は45%）まで回復することができた。今後もこの数値が維持できるように改修・改善を継続していきたい。

「学校からの情報提供」の改善・向上を目的とし、今年度よりメール配信システムとホームページを変更した。メール配信システムについては欠席連絡機能があるものに変更した結果、保護者からは通勤中などいつでも連絡できるようになったと一定の評価を得ている。また欠席連絡に関わる担当者や教職員の負担も軽減され、働き方改革の面でも学校にプラスの効果をもたらしている。学校ホームページや学校パンフレットについても変更したが、その位置づけとして、本校進学を検討している中学生やその保護者への案内・宣伝を重要視した構成であるため、生徒・保護者の診断アンケートにおいてはその数値は伸びていない。

## 【交流活動】

今年度は、新型コロナウイルス感染症対策も緩和され、海外語学研修を除く交流活動については、元に戻すか、それに近い状態に戻した。昨年度同様、WEBでの韓国ポクサン高校とのオンライン交流や、学校体験という形で海外在住の日本人学生の受け入れなどを実施し、コロナ禍における本校独自の交流活動を継続した。それとともに保育や家庭科関係、部活動関係における地域交流活動についても大きく再開した結果、生徒の肯定率が9ポイント上昇した。今後もこのような交流の場を提供し、生徒のこころの育成や進路設計の役に立つように実施していきたい。

る。多くの業務を抱える教員に負担になっているのではないかと意見をいただいた。・学校教育自己診断アンケートに関する話の中で、自治会、行事に対する肯定値はすごく上がっている。という意見をいただいた。

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価	
1 学力向上と進路実現	(1) 「確かな学力」の定着と授業改善 ア 「生徒の発言を引き出し、表現力を高める授業づくり」 イ 授業改善 ウ ICT を活用した授業実践	ア・学習支援室と各教科が連携して、授業アンケート、学校教育自己診断、相互授業見学等に取り組み、結果を総合的に分析し、課題を共有し、更なる授業改善を進める。 ・ペアワーク、グループワークを積極的に活用する。 ・土曜学習会、補習、講習等学習支援の取組みを充実させる。 イ・校内・校外研修や相互授業見学を通じて授業改善に努める。 ウ・生徒1人1台の端末の導入によるオンライン学習等に向けた取組みを推進する。	ア・授業アンケート、学校教育自己診断（以下、「アンケート」と記載）による生徒満足度、「わかりやすい授業・教え方に工夫」令和3年度80.1%、教員のICT活用率令和3年度74.2% ・管理職授業見学時、5割実施目標 ・「土曜学習会」参加者数平均100名以上。（令和3年度、平均100名） イ・アンケート（教員）の肯定「生徒の実態を踏まえ、指導方法の工夫・改善に努めている。8割以上 ウ・ICTによる一斉学習、個別学習、協働学習の実践研修を、各学期に1回以上行う。 アンケート教職員 ICT 機器をよく活用している75%以上	ア・アンケート「わかりやすい授業・教え方に工夫」83% 割（ ） ICT活用は78% 割。（ ） ・管理職授業参観調査「グループ、ペア、自発的な相談時間で意見を共有させていた授業数」4割(△) ・「土曜学習会」参加者は平均63名（ ） イ・「生徒の実態を踏まえ、指導方法の工夫・改善に努めている」84%割（ ） ウ・アンケート教職員 ICT 機器をよく活用している78%（ ）	
	(2) 英語コミュニケーション力 ア 朝学習 ウ 発信する力	ア「学習基礎」(朝学) 英語ディクテーション学習を中心に、年間計画をたて、「みる」「きく」等の感覚機能を活性化し、毎日の脳トレーニングを実施する。 ウ英語4技能のうち「話す」力の向上をめざした外国人講師によるイングリッシュデイ研修等、特別な取組みを計画して実施する。	ア・一斉配信英語教材の研究と作成。授業アンケートによる取組み意識の肯定率80%以上をめざす。 ウ・全生徒対象のスピーキングテストを年1回以上実施。 ・1～2年時にイングリッシュデイ研修実施。	ア・アンケートの肯定率87.8% ( ) ウ・スピーキングテスト4回実施（ ） ・イングリッシュデイズは1・2年各回実施。生徒満足度割（ ）1年：未実施 2年：1回	
	(3) 進路実現 ア 進路指導 イ 情報提供	ア・「進学講習」「学習キャンペーン」等を推進し、家庭学習時間を増加することで進路実現につなげる。 ・進路指導部と連携し阿倍高塾の授業内容の充実と映像教材の指導充実を図る。 ・入学時の学力の維持・向上に努めることを目標として、学力生活実態調査等を用い、進路実現を図る。 イ・進路指導部からの情報発信を増やし、進路に向けての生徒の意識の向上と同時に保護者の理解や協力を得る。 ・学習ガイダンス、進路ガイダンス機能を充実させる。(選択科目説明会・進路別説明会・学問別説明会等の充実)	ア・平日の家庭学習時間60分以上の生徒の総数が学年総数の過半数を占めること。(令和3年度40%) ・阿倍高塾の生徒満足度60%の維持。 ・学力生活実態調査等の成績の経年比較とBゾーン以上の成績を有する生徒の総数が学年総数の過半数を占めること。 ・中堅・難関大学合格者数の180名(令和3年度151名)。 イ・進路指導部からの保護者、生徒へのメール発信50件(令和3年度45件) ・アンケート(保護者)「進路指導・情報提供に関する肯定値」80%の維持向上。 ※R3:68%、R2:67%	ア・平日の家庭学習時間60分以上1・2年調査41.7%( ) ・阿倍高塾の生徒満足度% (○) ・Bゾーン以上の成績を有する生徒1・2年% ( ) ※R5 4月に調査予定。 ・中堅・難関大学合格者数名 ( ) イ・進路指導部からの保護者、生徒へのメール発信51件 ( ) ・「進路指導・情報提供に関する肯定値」82% ( )	
	2 総合的な探究の時間の推進	(1) 志学、人権・道徳教育、総合学習(総合探究)を総合的に ア 総合的な探求	ア・志学、人権・道徳、総合探究の各委員会で、学年と連携して新学習指導要領を踏まえた指導内容を充実する。 ・総合探究でキャリア教育の取組みやSDGsの学習を計画的に推進する。 イ・これまでの取組みの検証を踏まえて、引き続き、芸術鑑賞、人権講演会、美化活動、挨拶キャンペーンなどを企画し、その充実を図る。 ウ・「花いっぱい学校・日本一きれいな学校」を目標に、『阿倍高を美しくする会』の支援とともに周辺地域のボランティア美化活動をより推進する。 エ・人権教育、道徳教育推進計画を作成する。	ア 系統立てたキャリア学習を計画する。 ・アンケート(教員)肯定値「キャリア教育」6割以上。 ・月1回以上、生徒間の議論を組み込んだ総合探究を実施する。 イ・アンケート(生徒)「豊かな心や生き方について考える機会がある」肯定値70%以上の維持。 ウ・アンケート(生徒)「授業にふさわしい環境」肯定値80%以上。(令和3年度80.5%) ・生徒自治会、同窓会、保護者、教職員が連携して年間2回の美化活動の取組みを推進する。 エ・拉致被害教材「めぐみ」を活用した人権教育を行う。	ア・「キャリア教育」10割 ( ) ・SDGsへの取り組みが浸透してきている。(◎) イ…「豊かな心や生き方について考える機会がある」肯定値79% ( ) ウ・「授業にふさわしい環境」肯定値82.5% ( ) ・『阿倍高を美しくする会』4回実施(一月現在。二月にも予定)(◎) エ・「めぐみ」は1年HRで実施(○)
		(2) 国際交流活動	ア・国際交流委員会の活性化を図り、外国人短期研修やWEB交流等の機会を探る(感染症対策の状況によって変動)	ア・国際交流の実施回数を増やす。(令和3年度2回)	ア・韓国高校とのWEB交流をはじめ3回の交流を行った。(○)
		(3) 読書活動の推進	ア・図書館を中心に読書・学習活動の推進を図り、読書習慣を身につける取組みを実施すると	ア・図書館だよりの定期的発行(令和3年度5回)を維持する。	ア・図書館だよりは5回発行(○)

## 府立阿倍野高等学校

		もにビブリアバトル(トーク)の推進を図る。	・年間貸出し冊数 880 冊以上をめざす。(令和3年度 824 冊)	・年間貸し出し数平均一人 1036 冊 12月現在 冊 ( )
3 府民に信頼される魅力ある学校づくり	(1)安全で安心な学校づくりと意欲ある学校生活	感染症対策等、安全と安心を優先させることを前提におき、生徒満足度の向上を図り、授業と学校行事、生徒支援の各面でより一層生徒の主体性を育み、意欲ある学校生活を促す。		
	ア 支援相談委員会の充実	ア・SC、SSW の活用を含め、教育相談体制を充実させ、個々の生徒及び家庭環境に対して、寄り添った指導を心がける。 ・支援を求めている生徒に対し、ニーズに合った支援を行うことで、生徒全体の「共に学び、共に育つ」意識を育む。	ア・アンケート(生徒)の「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い」の肯定値 70%以上。令和3年度 67.2% ・支援相談委員会の取組みを1.2学期末に全教職員で共有し、意思疎通を図る。 ・支援相談委員会と支援が必要な生徒、保護者との連携を全教職員で共有する。	ア・「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い」の肯定値 71% ( ) ・全教職員での共有には至っていない。(△)
	イ 生徒支援関連業務の充実	イ・自治会活動において生徒の主体性と自治運営力を向上させ、感染症防止対策を踏まえた体育大会や文化祭等各行事の進化、発展をめざす。 ・遅刻指導を徹底する。 ・安全な通学、特に自転車通学の事故防止のための巡回指導を充実させる。 ・自治会とともに学校食堂の魅力の向上を図る。 ・自然災害への防災体制の強化及び防災教育を推進する。	イ・各行事で生徒アンケートを実施。生徒満足度、9割の維持(体育大会、文化祭)。 ・遅刻者数→年間1人1.5回以内をめざす。 ・自転車通学生徒の交通法規遵守、マナーの向上。→年間事故件数0をめざす。(令和3年度5件) ・食堂利用生徒の満足度を向上させるため自治会執行部と協議する。 ・災害発生時等、緊急時の生徒の安否確認や連絡確認をメールシステム等で実施できる体制を整え、登録者100%をめざす。	イ・生徒満足度体育大会 91.7%、文化祭 96.3% ( ) ・遅刻者年間 回 ( ) ・自転車年間事故件数 件 ( )
	ウ 美化関係業務の充実	ウ・年3回の安全点検を実施し、危険を排除する。 ・清掃が行き届く分担場所の工夫と清掃の確実な実施。 ・生徒自治会を主体にクリーンキャンペーンを実施し、校内美化活動を通して愛校心と仲間意識を育む。	ウ・安全点検やアンケートを実施し、問題点は速やかに改善する。保護者からの指摘件数0件をめざす。 ・アンケート(教員)「清掃や設備点検がいきとどいている」(令和3年82.9%)の維持。 ・クリーンキャンペーンへの参加者数300人以上。	ウ・保護者からの指摘件数 件 ( ) ・「清掃や設備点検がいきとどいている」84.4% ( )
	エ 部活動の充実	エ・大阪府運動部活動の在り方に関する方針の主旨を踏まえ、バランスのとれた部活動を推進する。	エ・適切な休養日及び活動時間の設定に基づいた年間計画書の提出。	エ・部活動年間計画の提出 (○)
	(2)学校運営体制の強化			
	ア 組織力の強化	ア・教職員全体のチーム意識を高めるなど組織力の強化を図る。	ア・アンケート(教員)「各分掌・学年間の連携が円滑に行われ、各種会議で教員間の意思疎通や意見交換を行い組織的に機能している」(令和3年度74.3%)の向上。	ア・「各分掌・学年間の連携が円滑に行われ、各種会議で教員間の意思疎通や意見交換を行い組織的に機能している」71.9% ( )
	イ 教員の育成	イ・オンラインPTによる授業改善研修の実施。	イ・アンケート(教員)「授業方法について検討する機会や経験の少ない教職員をサポートする積極的な体制がある」(令和3年度60%)の向上。	イ・「授業方法について検討する機会や経験の少ない教職員をサポートする積極的な体制がある」59.4% ( )
	ウ 働き方改革	ウ・全校一斉退庁日及びノークラブデーの実施、長時間労働削減のための業務効率化と意識改革を図る	ウ・安全衛生委員会で月1回検証する。	ウ・安全衛生委員会は毎月実施し、提言を生かすことができている。(○)
	エ 保護者連携	エ・保護者との意見交換や意思疎通による連携を図る。	エ・各学年保護者会を1学期に実施する。	エ・各学年保護者会を1学期に実施した。それ以外にも進路に関する保護者会にも多くのご参加をいただいた。(◎)
(3)開かれた学校づくり				
ア H.P、メール発信	ア 改新されたホームページ、メールシステムの充実を図る。	ア・アンケート(保護者)「H.P、メルマガで情報提供されている」肯定値(令和3年度)86%の維持向上。	ア・「H.P、メルマガで情報提供されている」肯定値 84% ( )	
イ 広報	イ・広報PTを立ち上げ、本校の持つ「落ち着いた環境で学べる」という強みを発信し、志願者数増につなげる。また、早い時期から中学校の情報を集約することで中学校訪問を有効に活用する。	イ・志願者数を増加させる。(令和3年度1.25倍)	イ・令和4年度 倍 ( )	
ウ 地域交流	ウ・家庭科選択生徒や部活動生徒、有志生徒中心に地域行事やボランティア活動に取り組むことにより地域との交流を深める。	ウ・地域の方との交流回数のべ10回以上をめざす。	ウ・百周年記念事業や家庭科部を中心に多くの交流を深めることが出来た。25回 ( )	